

日韓交流事業 2018  
上野焼開祖ゆかりの地から海を越えて

真夏日が続く7月21日からの3日間、韓国泗川市の東城小学校の児童19人が来福し、福智の児童13人と交流しました。当初はお互い緊張の中、身ぶり手ぶりを駆使してのコミュニケーション。県内外と一緒に観光し、寝食をともにすることで友情も深まり、最後に涙を浮かべながらの惜別の姿が印象的でした。



↑ 交流最終日に博多ふ頭で互いに別れを惜しみ抱き合う福智と韓国の児童。

↓ 主将として真摯に競技に打ち込む姿で部員をけん引し、信頼の厚い山本さん。



レスリングの山本雅也さんが国体県代表に選出  
追い続けた全国へ最終学年で出場

九州共立大学レスリング4年生の山本雅也さん(神崎)が7月21日に行われた福岡県予選を勝ち抜き、10月の福井国体への出場を決めました。結果を求め昨年より種目や階級の変更に取り組み、初めてグレコローマン72キログラム級県代表の座を獲得。競技歴7年の集大成を目指し、各県強豪が集う大舞台で思いをぶつけます。

金田中吹奏楽部が吹奏楽コンクールで筑豊代表  
史上初の快挙で刻む新たな1ページ

金田中の吹奏楽部が7月29日に行われた第63回吹奏楽コンクール筑豊支部予選で最高賞の金賞を受賞し、県大会の代表に選出されました。代表は出場26校中5校で、田川地区から県大会に進むのは大会史上初。惜しくも九州大会出場は逃しましたが、快挙にOBからも賞賛が相次ぎ、生徒の大きな自信となりました。



↑ 昨年金賞ながら代表を逃した悔しさをバネに、団結力を高めた部員33人。

↓ 貴重な資料を手に専門的な見地から意見を交わす福島さん(左)と今泉さん(右)。



日本工芸会西部支部陶芸部門が福智町を訪問  
各地の陶工が福智に集い情報交換

人間国宝の今泉今右衛門さん(有田焼)や福島善三さん(小石原焼)などそうそうたる名工が所属する日本工芸会西部支部の22人が7月31日に福智町で研修を行いました。渡窯とふくちのちを訪れ、陶片や古上野などを手に上野焼の魅力や技法について議論。窯元や職員とも意見を交わし、双方に有意義な研修となりました。

↓ 年に一度だけ歩行者天国となり、浴衣姿や家族連れも多く見られにぎわう約600mの金田商店街。



I LOVE FUKUCHI フェスタ  
熱気と笑顔あふれる夏の祭典

金田商店街に40以上の露店が並び、多彩な参加型ステージが魅力の夏の恒例行事「I LOVE FUKUCHI フェスタ」が8月4日に行われました。メインの「大縄でQ」では酷暑に負けない熱戦が展開され、例年以上にユニークな着こなしが目立った「浴衣 de ナイト」で盛り上がりは最高潮に。来場者の笑顔と熱気に包まれたイベントは、今年も盛会で幕を閉じました。

福智町防災講演会  
災害のリアルと命の尊さを語りかける

災害の発生しやすい夏季に向け「福智町防災講演会」が7月29日に地域交流センターで行われました。九州北部豪雨で朝倉市への派遣経験を持つ消防士の二場祐介さんが災害の恐怖や支えあう被災者の現実を現地写真を交え講演。人命救助にかける決意や命の尊さを会場の約450人に力強い言葉で訴えました。



↑ 言葉を詰まらせながらも行方不明者の家族から情報収集した当時を回顧。

↓ 沖縄の守り神・シーサーの絵付けを初実施。世界に一つのお土産が完成しました。



沖縄平和学習「少年の翼」  
美ら島で感じた命の尊さと琉球文化

交流事業実行委員会主催の「少年の翼」が7月28日から3日間開催され、31人が沖縄県中城村の同世代家庭にホームステイしました。世界遺産の中城城跡などを見学し、4回の事前研修で学んだ琉球文化と沖縄の風土を肌で体感。最終日は平和祈念堂などで沖縄戦の悲惨な記録をたどり、命の尊さを深く胸に刻みました。